

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤ グループホーム
訪問調査日	2008年 2月 14日
評価確定日	2008年 4月 22日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤグループホーム
所在地	滋賀県守山市三宅町833 (電話) 077-581-1551

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市杜富波乙681-55
訪問調査日	平成20年2月14日

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 5 月 20 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 1 人
職員数	13 人 常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1600 円			

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	守山市民病院/北野医院/川村歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは守山市内の田園が広がる中にあり、鉄筋コンクリート3階立てのピンクの外観が目目を引く建物である。経営母体の社会福祉法人「友愛」は乳幼児から高齢者までを対象とした幅広い事業が展開されており、それぞれの交流がある上に、ボランティアの受入や予防教室など地域の住民も参加しての交流が図られている。グループホームに併設されるデイサービスやショートステイに加えて、昨年地域密着型の介護老人福祉施設が開設されますます地域に根ざした事業を展開している。今春開設5年目を迎えるGHカナリヤは、以前からの”その人らしさを大切に”理念のままに、職員はあくまでも黒子に徹するという姿勢は変わらず続いていた。利用者の多くが自主的に食事作りに参加するなど、その人の持つ残存能力を引き出すことで、和気合い合いとした家族のようななじみのある関係が作られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価も4回目になり、改善点はいつも同じようなところがあがってくる。「専門医の確保」では利用者が個々に専門医を持っているので、法人としてのかかわりが弱くなる部分や、「口腔ケア」ではその難しさが引き続き問題点になっている。いずれにせよ、定期的に見直すことによって現在の問題点が職員間で共有できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は日頃の業務の見直しの機会になると全職員間で共有できている。全員に評価表が配布され各職員がチェックしたものを主任がまとめている。意見に相違点があった場合は皆で話しあう場が設けられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員は行政、自治会、利用者家族などのメンバーから構成され定期的に開催されている。会議はホーム内で開催され利用者の暮らしぶりを間近に見てもらえるようになっている。会議録が職員間でも共有されていてさらにより良いケアに繋がることにも役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族が訪問時に気軽に話し合える雰囲気になっているが、なかには文書で問題点を挙げる家族もある。その時々で管理者が話し合う場面を作り対応している。日々の暮らし振りを家族に伝える点では、毎月の請求書と一緒に一言添えたり、写真を同封したり、とされていたが現在は不定期になっている。是非検討課題に挙げていただき、定期的に継続されるよう期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所内での地域交流の場が設けられ、介護予防教室を開いたり、保育園児の受入をされたりしている。将来的には隣近所の方々が気楽に立ち寄れるお付き合いを目指した地域活動を展開されることに期待したい。どうしても他事業と併設した施設で、一般の方からは入りづらい立地条件にあるが、家庭的な雰囲気のする案内板や表札で、近所の方がもっと気楽に立ち寄れる場になり、利用者の方々が近所の方と気楽に交流できる場になって欲しい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とともに」が母体法人の大きな理念としてかかげられており、保育園児から高齢者までを対象とした幅広いサービスを提供している中、ホーム独自の理念として共同生活を送りながらも地域とかかわりつつ、個人の意志を尊重した理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の中でその人らしく暮す、という理念が職員間でも浸透しており、徹底した利用者本位の姿勢が共有できている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内での保育園児との交流は常にある。又、介護予防教室の開催や夏祭り等行事イベントを通して地域との交流は活発に行われているが、地域住民が個人的に訪問することは少ないように思う。	○	法人内での連携はなされている。将来的には隣近所の方々が気楽に立ち寄れるお付き合いを目指した地域活動を展開されることに期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでいる。評価も4回目となり、問題点は毎回同じところになるということで、その問題点をどうやって解決していくか、さらなる議論を深められることに期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議が開催されており、行政、利用家族、近隣住民らのメンバーが活発な意見交換をされている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人全体とした市との連携がなされており、高齢福祉事業に関しては「予防」に力を入れた住民向けの教室を開催している。事業所が中心となって近隣住民にさらに「認知症」の理解を深める勉強会などを継続していかれることに期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	以前の評価でもさらに改善する項目に挙がっており、毎月の請求書と共に、利用者個々の日々の暮らし振りの写真を添える、等努力してきたが現在は滞っている。家族の訪問時に説明している。	○	ほんの一言でいいので、その人の様子が書かれたメモがあると家族は非常に嬉しく、又安心するものである。全職員でメモ作りを順番にするなど工夫し定期的な報告に繋げてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には職員は家族とのコミュニケーションを図るように務めている。また苦情がある場合は管理者と話し合っ解決に向けて努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での移動は極力行わず、職員の退職の場合は、ホーム内で混乱がないように努力をしている。又、新規の職員を採用する際に、研修中に利用者の声(思い)を聞く配慮もされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は職員に配布している。研修参加者からは徹底した報告が実行されている。また県外での研修を希望する職員には経費を運営者が負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県GH連絡協議会に加盟し、研修に参加している。又その中で他施設職員との交流が生まれ、違う視点を持つ、という機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人内のサービスを利用していた利用者が多く、すでになじみの関係が出来ていたケースが多い。また、初めて利用する場合も、体験や法人内のショートを利用してからサービスを開始している。利用者の中には居室は別々だが、ご夫婦で入居されている方があった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は尊敬を持って利用者に接しているのが、職員の声のかけかたや、表情から伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の献立を職員から立てることをせず、利用者の意向に合わせた献立作りがされている等、すべての場面で利用者の意向を伺う努力を怠らない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とも十分に話し合って介護計画を作成している。常日頃から、ご本人の思いや意見を聞き入れる努力がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を共有し、常に話し合われている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年に1, 2度は利用者の要望が叶うような取り組みをしている。他府県まで日帰りでのお墓参りも事業所のワゴン車を使うことで可能になっている。また外食の為に遠方まででかけることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとに家族とその都度話し合い、納得のいく支援となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	穏やかでゆっくりとさりげない声かけがされていた。職員全員が個人の尊厳を守るように配慮している。ただ玄関入り口に設置してある面会簿がノート式であるのが気になった。	○	面会簿について前述の記入者がわからないように配慮するとか、設置場所ももう少し目立たないところでもないのではないか？と思う。ホーム内で検討して欲しい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	風邪気味の利用者が昼まで居室でゆっくりされ、食事間際になって、盛り付けや配膳などの食事の用意のお手伝いをされていた。あくまでも利用者主体のペースに職員が合わせていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を楽しめるように、その日の献立はその日の折込チラシを見て、季節感、価格等を考えて、利用者と一緒に買い物に行き、利用者全員が食事に対する関心を持てるように努力している。また、当日の食事(焼肉)では利用者がビールを美味しく飲まれていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は特に時間を決めていない、ということであるが、利用者の希望で主に夕方に入ることが多く、中には気の合う人と二人で入浴される方もあるということであった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内には利用者の飼い犬が共に暮らしていて、犬小屋には同じ名字の表札が作られていた。また利用者が編んだマフラーをしていた。他の利用者とはトラブルはなく、散歩することもあるようだ。又、玄関に利用者が活かされた花が飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内で基本的に日用品の買い置きはしていない。食材を買い求めたり、日々の暮らしの中で日用品が切れるとその都度買いにできるようにしている。たまには足を伸ばして百貨店に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜しかかけない。日中は入り口にセンサーで出入りがわかるようになっているが、その音も極力小さくして、職員の見守りが徹底されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、消防署を呼んだ法人全体としての避難訓練がされている。又、非常事態の緊急連絡網が周知されていて、数分でホームに来れる職員もいる為、夜勤勤務者は安心して業務できる体制になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調査日のメニューはユニット別に「焼肉」と「ちらしずし」であった。「焼肉」ではホットプレートで利用者がおもしろいにおもしろい好きなものを食べていた。	○	カロリー計算は本にしたがい行っているということであるが、高齢者の特質を踏まえた献立作りや水分摂取量のチェックなど、一人ひとりの状態に応じた健康管理の視点を取り入れて献立等に反映されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭をはさむように2ユニットがあるので、日当たりがよく、外の様子がよくわかるようになっている。	○	全体的に居心地のよい空間にはなっているが、一部、掃除が行き届いていなかったり、臭いの気になるスペースがあった。利用者本位の姿勢を維持しつつ利用者が出来ない部分は職員がカバーする、または職員が利用者と一緒に掃除する場面があってもいいのではないだろうか？ホーム内で検討して欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	孫の写真や、自作の水彩画などが部屋一面に飾られていた。		